

学校だより

10月号

重点目標 「いつも『何のため』を考え自ら行動しようとする子」



関わり合いの中で

今年は残暑が厳しく、熱中症に注意しながらこの一か月を過ごしてきました。ようやく朝晩涼しくなり、暑さの終わりを感ぜられることにほっとしています。



先日、内山自治会の夏祭りに4年生有志が「ソーラン節」を披露する機会があり、お邪魔しました。お祭りは4年ぶりということで、活気に満ちていて、子どもたちも生き生きと参加することができました。地域の方に「良かったよ!」「かっこいいね!」と声を掛けられ、嬉しそうにしている様子を見ると、たくさんの人に関わっていただくことの大切さを実感します。

学校では、2学期に入ってから3年生の「美術鑑賞教室」、4年生の「命の教室」、5年生の「ゆめせん」等の授業で外部講師の方に来校いただき、自由な発想や命の尊さ、夢を持つことの意味をそれぞれ専門的な立場から教えていただいています。また、2年生や3年生が学区探検に出かけ、地域にある施設や商店の方からお話を伺うことで、身近にある暮らしの中にもたくさんの人が関わっているということを学んでいます。



教師たちも子どもたちが他者と関わり合いながら学びを深め、考えを広げていくためにはどのような授業が有効か、という研究を日々続けています。共に話し合ったり、調べたりしながら自分の考えを伝えることや、相手との違いに気づき理解しようとする経験は、変化の激しい時代を生きることになる子どもたちにとって、多様性を認め合える能力を培ってくれるはずです。

これからもたくさんの関わり合いをもちながら、学校だからこその教育活動を進めていきます。

(教頭)

※学校ホームページ「学校ニュース」で子どもたちの学校生活の様子を紹介しています。